

安曇野に交通・流通革命をもたらし、豊富な流水(無)から養鱒(有)を生み出した先人

倉科 多策(くらしな たさく)

明科 中川手 出身

〈多策が活躍した時代〉 1865(慶応1)年~1939(昭和14)年 享年75(歳)

江戸	30	明治	35	42	大正	2	15	昭和	10	14	28
明科に生まれる		明科駅開設 明科駅誘致 に尽力	篠ノ井線	明科製材所 事業開始	白馬自動車運行	明科養鱒場 を設ける	鱒漁獲高多い 逝去				養殖紅鱒輸出盛ん

安曇野を東京と結び、今の明科を生み出した

無から有を生み出す闘志を持たねばならぬ！！

と、若者に説教！

養鱒に私財5万円(約1500万円)を投げ打つ



功績1 篠ノ井線明科駅の誘致 白馬交通の誘致 安曇野に交通・流通革命

- ・登山家が明科駅から活躍。製材を明科駅から運搬。穂高のわさびもここから東京の市場へ。白馬自動車(バス会社)が開業し、川手街道が通り、橋が次々開通。

功績2 明科への養魚場(県水産試験場)の設置

- ・現在、にじますの生産量はなんと全国2位。

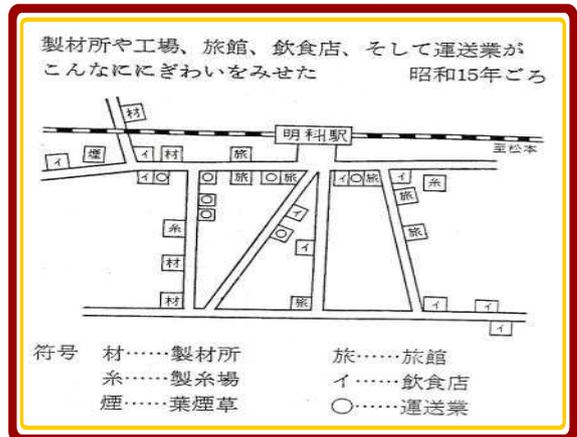
功績3 明科国営製材所の誘致

- ・山の木を犀川で下流に流し、明科製材所で製材。明科駅から鉄道で首都圏に送った

県水産試験場とは・・

安曇野はニジマス養殖発祥の地でもある。大正15年、明科に県営犀川ふ化場(現在の長野県水産試験場)が開設され養殖が始まった。水温10度から18度が適温とされるニジマスの養殖。安曇野の豊富な湧水を利用して養殖が行われ、生産量では日本1、2を争っている。最近では、信州サーモン の養殖などが行われ、信州の新たなブランド化への取り組みも行われている。

当時の明科駅前の様子



今、こんな形で 廃線敷ウォーク

昭和45年に蒸気機関車が姿を消して電化され、昭和63年に新線が完成した事で86年間の役目を終えた。レンガ積みの漆久保トンネルや当時の信号機など面影が残るコース。3万本のケヤキの木が植えられた、廃線沿いにはケヤキの森・漆久保トンネル・展望のよい東平などの見所もありケヤキが色づく10月下旬から11月初旬・新緑の5月などはお薦め。夏、ケヤキの森の木陰で過ごすのも最高。明科公民館前庭にある蒸気機関車としてその姿を残している。



参考文献 「長野県水産史」長野県漁業協同組合連合会
「犀川鮎繁盛記」青木周栄 「日本サケマス養殖の歴史」サーモンミュージアム
「明科町誌」「中川手村誌」「明科公民館報」「秘録大逆事件」塩田庄兵衛 春秋社
「安曇野市ゆかりの先人達HP」「長野県水産試験場HP」